

西日本インカレ（合同研究会）2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ）セツナンダイガク	フリガナ）ケイザイガクブ	フリガナ）ナカタゼミ
摂南大学	経済学部	名方ゼミ

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画をを使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	パワーポイント内の 動画使用（有・無）
フリガナ）チームスマイル	フリガナ）モリシタ サユリ	4人	無
チームスマイル	森下 さゆり		

研究テーマ（発表タイトル）

『おひとりさま』は何故増える？

※必ず「企画シート作成上の注意」を確認してから、ご記入をお願いいたします。

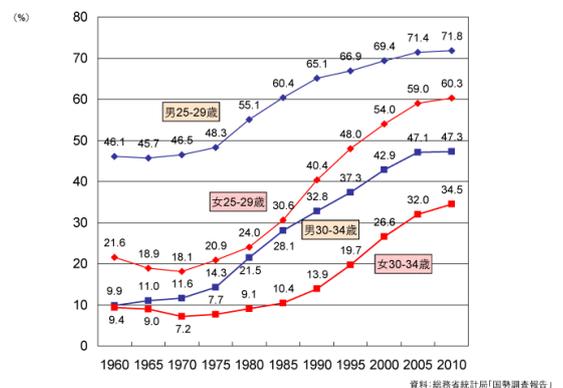
1. 研究概要（目的・狙いなど）

私達の研究の目的は、現在なぜ日本において未婚者や未婚率が増加しているのかという原因について調べることです。現在、日本は少子化が進み、その原因の一つとして未婚者や未婚率の増加が考えられています。少子化が進むと、消費者の数の減少を通じて企業の収益が低下し、賃金の低下につながります。また労働者の減少は企業の生産能力の低下をもたらします。このように少子化は経済に大きなマイナスの影響を与えるため、早急なる解決策が必要であると考え、このテーマを研究しました。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

現在、日本の未婚率が増加しています。具体的にいうと、25-29歳の男性の未婚率は、1960年には46.1%だったのが2010年には71.8%、30-34歳の男性の未婚率は1960年には9.9%だったのが2010年には47.3%に上昇しました。また25-29歳の女性の未婚率は、1960年には21.6%だったのが2010年には60.3%、30-34歳の女性の未婚率は1960年には9.4%だったのが2010年には34.5%に上昇しました。この未婚率の上昇に伴い、合計特殊出生数も1960年代は2以上であったのが、2015年には1.43まで低下しました。この結果、今後日本において人口と労働力の低下が予測され、日本経済に大きなマイナスの影響を及ぼすと考えられています、未婚率の増加の問題に対する具体的な対策案はとられていないのが現状です。

年齢別未婚率の推移



3. 研究テーマの課題

政府はこれまでワーク・ライフバランスをとれるような政策や待機児童の解決に従事してきましたが、一向に未婚者の数は減少していません。その為、何故未婚者や未婚率が増加しているのかという原因を追究し、その解決策を模索することが課題と考えました。今回の研究で、男女ともに、結婚をしない理由の上位に「趣味や娯楽・自由や気楽さを失いたくない」「必要性を感じない」「適当な相手に巡り合えない」などが挙げられていることがわかりましたが、この背景には、近年における趣味や娯楽の多様化により、一人であるほうが気楽で楽しいのでパートナーの必要性を感じない人が急増していることなどが挙げられます。従って、同じ趣味を共有できる相手や、自分の理想に合った相手を見つける出会いの場が問題となっています。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

政府統計に基づいた分析の結果、未婚の理由として以下のことが分かりました。まず、男性の未婚者が多い理由としては、男性の非正規雇用者や失業者の割合が増加した結果、結婚の為に資金を獲得することができず未婚に陥っていることが分かりました。一方、女性の未婚者は増加した理由として、女性の就業率が増加し、男性との相対的な賃金が増加した結果、経済的に自立した女性が増加し、結婚を必要としなくなったり、趣味や娯楽に時間を費やす人が増加したからであることが分かりました。今後、政府によって失業率の改善や非正規社員の待遇などの改善の為に政策を成すことによって、失業率の増加、非正規社員の増加に伴う経済的な要因による結婚に対するネガティブな印象を払拭することが重要だと考えます。また、依然として年齢の増加と一定の社会的地位の獲得に伴い、半分以上の人が結婚したいという願望を持っていることもわかり、男性と女性の出会いの場が充実することによって婚姻率の増加が期待できると考えます。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

日本の適齢期（20代～40代）の男性・女性の未婚者が増加する要因を『出生動向基本調査』『社会生活基本調査』等の政府統計に基づいて分析しました。まず、結婚をしない理由について調べました。その結果、男性側の理由として「趣味・娯楽・気楽さを失いたくない」「適当な相手に巡り合えない」「結婚資金が足りない」が主な理由である一方、女性側の理由として「趣味・娯楽・気楽さを失いたくない」「必要性を感じない」が主な理由として挙げられました。次に、年齢別・学歴別。職業別に人々に3段階に分けた結婚に対する意識調査（結婚したい・まだ結婚したくない・一生独身）を分析しました。この結果、パート・臨時雇い・無職者ほど結婚に対する意識が低いことが分かりました。また20年前と比べて人々の時間の使い方の変化を調べたところ、特に女性側の「仕事」と「趣味・娯楽」に費やす時間が増加していました。この過程を通じて、特に未婚者・未婚率の上昇に関係が深く、興味深い結果の出たデータを今回の発表では取り扱いました。

6. 結果や今後の取り組み

今後未婚率の上昇への対策として、婚活サイトや結婚相談所によるサービスの充実化が期待されます。しかしながら現状では、「婚活サイトの使用料が高い」「いい人に出会えない」「具体的なサービスの内容が分からない」といったマイナスのイメージにより、活用している人は5%にも満たない状態です。今後は婚活サイトなどにおける料金の見直しや第三者認証による不透明感のあるイメージを改善することが重要だということがわかりました。また、地方の農林漁業などの結婚意思がある人たちと交流を図るために婚活サイトや結婚相談所といった民間企業が地方行政と連携をとり、イベントなどを行うのが効果的だと考えます。成婚者に少子化対策の一環として国から助成金を出し、結婚に対する意欲を向上させることも、未婚率の上昇に伴う少子化への今後の取り組みとして必要だと考えました。

7. 参考文献

「労働力調査 長期時系列データ」総務省統計局

<http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.htm>

「労働力調査年報」総務省統計局

<http://www.stat.go.jp/data/chouki/19.htm>

「平成 23 年社会生活基本調査 生活行動編（全国）」 総務省統計局

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001039114>

「第 12 回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」 総務省統計局

http://www.estat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103_&classID=000001027363&requestSender=search

「賃金構造基本統計調査」 厚生労働省

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/chinginkouzou.html>

平成 21 年度 サービス産業生産性向上支援調査事業 結婚相談・結婚情報サービス業界統計 報告書 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング

西日本インカレ事務局への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、西日本インカレ事務局への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、3 ページ目までを渡します。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※その他、注意点については「企画シート・パワーポイントの作成および提出について」をご参照ください。